

---

# **男の娘なIS操縦者**

丈駄 春

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

IJのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

男の娘なIS操縦者

### 【NNコード】

N9193Z

### 【作者名】

丈駄 春

### 【あらすじ】

時は西暦20XX年

ISと呼ばれる女性専用のマルチフォームスーツの登場により女尊男卑が強い世の中女よりも可愛らしい男の娘、柊 八千代ちゃんは織斑君の登場によりIS適正値の検査を受けて高反応を出してしまつこうしてIS学園に強制入学させられた彼が思うことは一体何なのか？

男の娘描写が薄いかもされませんがなにとぞ」許しを

またそういうた描写が嫌いな方や原作キャラに思い入れが深い方は  
多分嫌悪感がつよいと思うので見ないことを推奨します

## 第1話　『1年ぶりに再開した幼馴染が変態になっていた』

? ? ? side

「 」 が IIS 学園か

僕こと柊 八千代は女性しか動かせないマルチフォームスーツ『イ  
ンフィニット・ストラトス』 通称『IIS』 の操縦者を育成する IIS  
学園に来ていた

なぜ僕がこんな場所に居るかというと・・・

男性でも IIS を動かせるという世界のパワーバランスを崩しかねな  
いコースをやっていた

せっかくだし、IIS 動かせるかもしないと天然属性な母親に言わ  
れ、渋々 IIS 適正値を測る政府研究機関に行つて反応しなかつた  
という結果を持つて帰るつもりだったのだが、あらうことか適正値が  
高く実際に IIS に触ると動いてしまったものだからそれはもう大変  
二人目の IIS 男性操縦者として IIS 学園に強制入学することになりました

という訳だ

しかし ざ IIS 学園に入ると視線が痛い

IIS を動かせる、男性なんてそういうことはない

周りの人たちが興味の対象になること間違え無い

ああ・・・どうしてこうなつてしまつたのだろうか

とにかく・・・もう一人の男性 IIS 操縦者であり幼馴染である織斑

一夏にはやく合流せねばならない

そつと決まれば早く一組のクラスに向かおう

side out

一夏 side

・・・これは想像以上にキツイ

何がキツイかつていうと・・・女子の視線がキツイ

上野動物園のパンダの気持ちが分かる気がする

がらがら

教室の扉を開けて現れたのは、一人の男装した少女

茶味を帯びたポーテルを揺らしながら俺の隣の席に座る

「・・・つて八千代！？」

「ハロ～一夏、元気そうでなによりだ。入試で IIS を動かしたみた

いだね

「なんで・・・まさかお前女だったのか！」

「んな訳ないでしようが！――！」

八千代は顔を赤くしながら机を叩く

「いい！一夏、この際だから言っておくけど、僕は正真正銘のお・  
と・こ・今度女の子扱いしたら、一夏の恥ずかしいエピソードをク  
ラスマイトに言うからね！」

つーんとした顔になると、ひそひそ話が聞こえてくる

まったく変わらないな

女扱いされるとすぐ怒るクセ

「何か失礼な」と言つたでしょ

変に勘がいいのも相変わらずだった

s i d e o u t

八千代 side

全く・・・一夏は

相変わらず僕のコトを怒らすのが上手だつた

『やつぱり女だつたのか』

一 夏の声を思い出す

やつぱりってなんなんだよ

やつぱりって

ああもう苛々するなあ

・・・僕って女の子らしいのか

ええい！

こつなつたら高校デビューしてやる！

そうと意思を硬く決めるとまた一人新たな人が入ってきた

なんか体つきは大人なのに顔だけ子供

子供が背伸びしているような人だなあ

「みなさんこんにちは、私は副担任の山田 真耶です。よろしくお願ひしますね」

につ

と山田先生は笑つてはみるものの中一人反応してくれない

やつこへ

じつにやつこへいだれつ

だれかがやらないなら僕がやるわ

「よ、ようじくおねがいします」

「あ、いえ」ひりひりそ

なんで教師が生徒に頭を下げているんだよー

内心ツッコミを思つていると

山田先生は出席簿を開いて、

「や、それじゃあ～血口紹介でもしてもいいおつかな～出席番号順で」と言つ

うん。定番だね

まず、名前に趣味、特技

つて僕・・・趣味ないじやん

落ち着け・・・落ち着くんだ

とりあえずなんか読書でもするつて言つとナガニーや

しづめいへ皿「」紹介を進んでいくと、一夏の番になっていた

しかし、一夏は反応もせずになにかに思ひ込んどこりみつだ

「織斑君、織斑君ー、織斑、一夏君ー。」

山田先生の呼び出しに答えた一夏は席から立ち上がった

「は、はーーー。」

「あ、あの大声だしあやつて』めんなさいね。今皿「」紹介している  
んだけど『あ』から始まつて『お』なんだよね自己紹介してくれる  
かな?駄目かな?」

「しますーしますからみんなに謝らないでください。えー、織斑、一  
夏ですよ!しつくお願こします」

そのまま周囲の様子を見渡すようにチラリと見る

(何だよ、その『それだけで終わるじゃないよね』な視線はええい  
南無二)

すーはー

とこつ深呼吸の後

クラスメイトの関心は一夏に集まる

「やーここむハ千代は俺の嫁だー。」

## スパン

「一つの物理的な干渉の衝撃音が一夏の頭に響く

一つは黒スーツを着た

一夏のお姉さん

織斑 千冬による出席簿アタック

そしてもう一つは千束さんにもらった特製のハリセンによる僕の攻撃だ

「い、ち、か、君、誰が嫁だつて~」

「いや・・・場を和ますためにもひつよつだと想つたんだつて!」

「そんな場の和ませ方があるかーあつてたまるか!」

「終落ち着け」

千冬さんに言われて頭に上つていた血が戻る

「すみません、自己紹介を邪魔しました」

「あ、そういうば~織斑先生、もう会議は終えられたのですか?」

「ああ、山田君。クラスへの挨拶、押し付けてしまつてすまなかつたな」

千冬さん教卓の前に立ち、自身の自己紹介を始める

「諸君！私が君たちの担任を勤める織斑千冬だ君たち新人を一年で使い物にするのが私の仕事だいいか私の言つことには『はい』と返事をしろ、よくなくても返事をしろいいな？」

## なんという無茶振り

これが千冬さんの教育方針なのかと驚きを隠せずにいられない・・

クラス中から

「千冬様！本物の千冬様よ！」

「私はお姉さまのファンなんですよ！」

「わ、私はお姉さまに憧れてこの学園に来たのよ！北九州から」

「私、お姉さまのためなら死ねます」

いろいろシックな所は満足な箇所で置かれている

千冬さんを見てみるとやれやれと頭に手を置いていた

「まつたく、毎年よくこれだけ馬鹿者が集まるものだ・・・あれか、私のクラスにだけ置いているのか？」

彼女がため息をつくとクラスは益々ヒートアップしていく

「もひとぞつて纏つてー！」

「でも時こな優しくしてー！」

「やしへつたあがらないように躰をしてえ～」

わつと彼女たちもつ手遅れなのだろう

僕は彼女たちから田を逸らして空を見つめる

ああ、空はなんどいろんなに青いんだがつ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9193z/>

---

男の娘なIS操縦者

2011年12月28日20時52分発行